



総社市子ども議会

子ども の提言が 総社市を 変える

子どもたちが「市政への理解と関心をもつてもらう」と子ども議会を開会。市内4中学校の2、3年生17人の子ども議員が、市長や教育長ら市幹部と、約3時間に及ぶ熱い議論を展開しました。会期は8月29日の1日限り。おおむね通常の定例会議に沿って議事は進行されました。

議会前の7月30日、31日には子ども議員全員で東日本大震災の被災地である宮城県を行政視察。「一般質問では視察の経験を基にした防災、被災地支援に関する質問も出ました。」

震災被災地への行政視察

7月30日と31日の二日間、東日本大震災の被災地を子ども議員17人全員で視察。宮城県石巻市と仙台市を訪問しました。現地では被災状況を語り部から聞いたり、石巻市立湊中学校と仙台市立高砂中学校の生徒と意見交換会を行いました。

学校の生徒と意見交換をしたりしました。また、奥山恵美子仙台市長への表敬訪問。これら視察の状況を子ども議会の冒頭に報告しました。

高く積まれたがれきの山を見て復興が遅れていると感じた江原聖裕さん（総社西中3年）は「現地の人は、震災が忘れ去られてしまふことを恐れていた。実際に見て話を聞いた僕たちが伝えていかなければならない」と報告。井上裕斗さん（昭和中2年）は「予告しない避難訓練を行うべき。非常持ち出し袋を準備しなければ」と、視察で学んだ教訓を話しました。現地の中学生との意見交換会で、家族を探していくつも



▲奥山恵美子仙台市長を表敬訪問 ▼石巻市立湊中学校を訪れ被害の大きさを目の当たりに



「これより一般質問に入ります」※番号は議席番号。敬称略

環境問題について



13番 神崎 恵太
総社中学校 3年

総社市は被災地のがれきの処理を受け入れられないのですか。行政視察で行った被災地にはまだたくさんのがれきがありました。1日も早い復興のために協力できたらいいと思います。

市長 受け入れようとしたものが、がれきは被災地で処理する目的が立ったので具体的に何かやるということにはなっていません。新たなごみ処理や支援策が必要なきときは総社市は立ち上がります。

総社市防災週間の制定を



6番 中島 由香
総社東中学校 3年

大震災から1年、地震に対する恐怖や防災への意識が薄れつつあ

るように思います。いつ起こるかわからない地震に対し市民全員が常に備え、安全に暮らすため「総社市防災週間」を制定することを提案します。

市長 この意見を尊重して総社市防災週間を制定したいと思えます。市議会とも相談し、時期などを考えていきます。

節電対策について



9番 織本 洸太郎
総社西中学校 3年

震災による原発事故を受け全国の原発が停止されました。その影響で電力不足が懸念されています。今後取り組もうとしている節電対策はどのようなものがあるのですか。

市長 私たちの役割は、市民に節電に協力しようと思ってもらおうよいうPRしていくことです。例えばクールビズやゴーヤのカーテンなど市役所もやっている姿を市民に見せることをやっていきます。

適正な救急利用のために



5番 佐々木 悠莉
総社東中学校 3年

救急車の出動件数がとても多いと感じます。緊急性が低いにもかかわらず利用する人もいるようです。正しい救急車の利用方法を周知徹底するため、救急車を呼ぶ基準を設けてはどうでしょうか。

市長 救急車を呼ぶときの目安を記載したリーフレットを作成し、市民に知らせたい。ですが、私たちは市民を信じ、呼ばれば必ず助けに行きます。市民も私たちを信じて、タクシーより安いからとか、早く診てもらえるからとかでは呼ばないでほしいと思います。

大規模校との交流を



16番 井上 裕斗
昭和中学校 2年

規模の違う学校の活動を知るため、市内4中学校の部活動での交

流戦の実施や、各学校の体育祭の様子をパネル展示で紹介することはできませんか。

教育長 中学生同士交流するのはとてもいい考えです。すでに、部活動単位で交流戦や合同練習会を実施しているところもあるので、今後より一層推進するよう学校に働き掛けたい。体育祭の様子は各学校のホームページにタイムリーに載せるようにしたいです。

被災地支援について



12番 松浦 公美花
総社西中学校 3年

視察した被災地は、思っていたよりも復興が遅く、がれきが山積みになっている場所もありました。復興にはまだ時間と費用が必要ですが、総社市ではこれからどのような支援活動を行うのですか。

市長 両親をしくした子どものための「そうじや・宮城っ子基金」を続けます。同時に、子ども議員が被災地に視察に行ったように、総社の子どもが被災地を見に行くことができるようにしたい。